

## 捕獲柵設置によるサルの被害防止対策

### 1 要旨

阿武町の西部海岸部に位置し水稻を基幹作物とする中山間農業地域である。近年特にサルの生息頭数の増加により、農作物への被害に加え人に対する威嚇などの加害行動も発生している。

現在の防護柵の設置や追い払いでは被害防止とならず、農作物の生産性や営農意欲の低下を招いていることから、環境整備やサル天井侵入型移動式捕獲柵等を設置し被害防止対策に取り組んでいる。

### 2 地区の概要

地区名	阿武町 筒尾地区
戸数	18戸（うち農家15戸）
耕作面積	田8.8ha、畑0.4ha
主な作物	水稻
加害獣種	サル
対策実施年度	平成30年度

阿武町 筒尾地区



### 3 被害の状況と課題

電気防護柵の設置によりイノシシによる被害は軽減しているがサルによる野菜、果樹の食害が発生している。

サルに関しては、防護柵の効果が無く、集落ぐるみの追い払いを行っているものの再度出没している。

### 4 取組内容

#### (1) 被害防除・生息地管理

遊休農地発生防止のための保全管理を実施し、緩衝帯の設置や放任果樹の除去及び農作物の残渣の処理、防護柵の補修を実施している。

#### (2) 捕獲（個体数管理）

①既存のイノシシ捕獲柵の周辺整備を行い、計画的かつ効率的な捕獲を実施している。また、新たにサル天井侵入型移動式捕獲柵を設置し加害レベルの高いサルを群れごとに捕獲する。

②地域・集落による広域的かつ集落ぐるみによる狩猟免許取得を推進し鳥獣被害防止に対する意識の向上をはかり捕獲隊員の育成、確保に努めている。



捕獲柵の設置

## 5 取組の成果

設置当初に、サル3頭が捕獲される。

これ以降の捕獲実績は無いが、地域で鳥獣害被害を防止する機運が高まった。

(千円)

区分	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実施前	実績	増減	実績	増減	実績	増減
サル	626	563	▲63	510	▲116	460	▲166

## 6 地区代表者のコメント

地区猟友会の活躍で、サル被害が一時減少したが、群れが分裂したため、少数が移動しながら波動的に里に出るようになった。

捕獲柵に期待したが、十分な成果が出ていない。

柵の能力を発揮できるような工夫を、多様なパターンで試しながらで、粘り強く継続した取り組みを行う必要がある。

## 7 今後の取組

捕獲柵を効率的に利用するため、生息域、出没地域の状況把握が重要であり、関係者や関係機関と連携し、地域一体で被害防止へ対応できる組織づくりを目指し、効率的に捕獲が可能な場所に捕獲柵を設置し、本地区のみならず、周辺集落の被害防止にも取り組む。